

2 使った後の容器包装を廃棄物にしない取り組み

リサイクルセンターに集約

リサイクル回収の輸送にかかるエネルギーやCO₂の排出などが問題にされることがあります。ユニーでは、店舗から配送センター内のリサイクルセンターに搬送する際に、商品物流便の帰り便を使うことにより、無駄な燃料やCO₂排出削減に努めています（現在、北陸地区・中京地区の配送センターにリサイクルセンターを設置。その他の地区は店舗から直接リサイクル工場へ搬入しています）。リサイクルセンターでは、各店舗から回収した使用済み容器を計量し効率的に搬送しやすくするように圧縮し、それぞれのリサイクル工場へ搬出します。



弥富物流センター内のリサイクルセンター

容器包装リサイクルの仕組み



リサイクルボックスによる容器の店頭回収

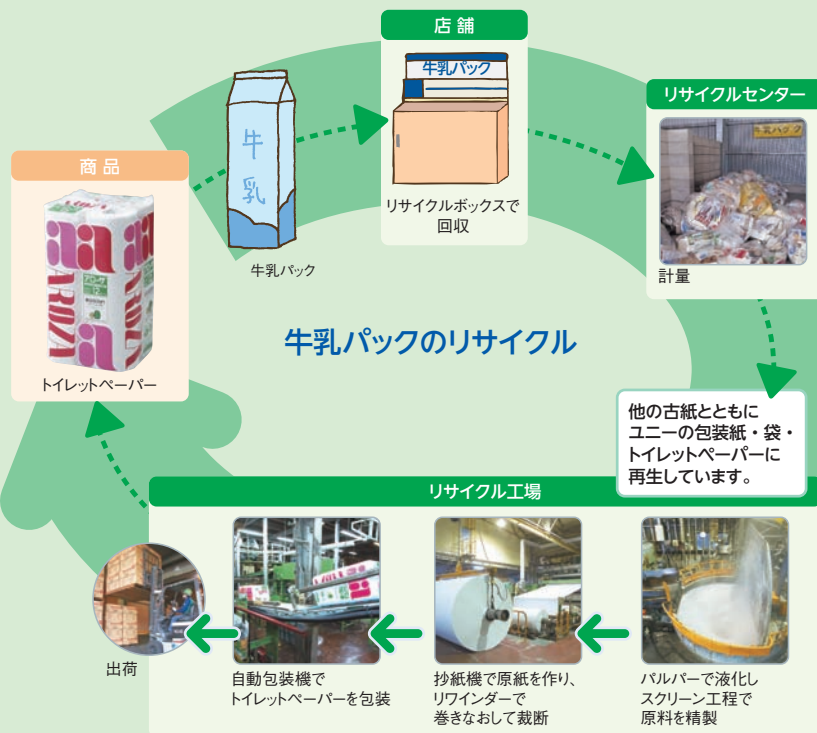
ユニーではお客様の家庭から出るゴミを削減し再生資源とするために、食品取り扱い店舗全店で使用済み容器包装を店頭に設置したリサイクルボックスで回収しています。これはお客様と一緒に進める「循環型社会構築」のための取り組みの一つです。リサイクルボックスで回収する容器包装は、再生利用ルートを確認し、国内で循環するシステムに利用できるものだけです。再利用することが困難なものは回収していません。

各店舗の回収実績は毎月集計し、ポスターで公表します。またリサイクルの流れやリサイクル製品を分かりやすく説明したポスターなども掲示し、お客様にリサイクルの仕組みを理解していただけるよう努めています。



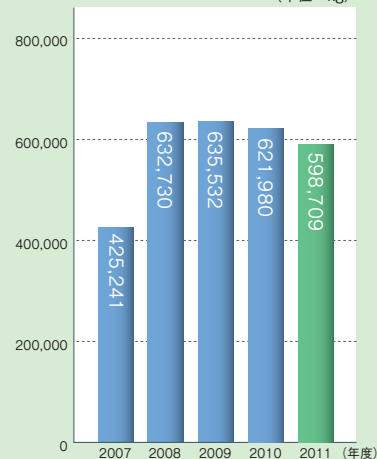
全国牛乳容器環境協議会によると、牛乳パックの回収率は日本全国で約34%（使用済み回収分）と報告されていますが、アルミ缶の90%、ペットボトルの80%に比べ、とても低い回収率です。牛乳パックはバージンパルプで製造され、高品質なパルプとして再生利用できます。

ユニーでは、牛乳の消費者である子供達に、お店探検や環境学習の場で牛乳パックのリサイクルについて学んでもらい、飲み終わった牛乳パックを洗って開いて、リサイクルボックスに自分で持ってくるよう啓発しています。



リサイクル量の推移

(単位: kg)



参加店舗数と参加率の推移

年度	参加店舗	食品取扱店舗	参加率 (%)
2007	142	142	100.0
2008	220	224	98.2
2009	223	223	100.0
2010	223	223	100.0
2011	217	217	100.0